

**非常時の事業継続計画(BCP ビジネス・コンティニュイティ・プラン)とは**

－東日本大震災と原発事故で考える－

開倫塾

塾長 林明夫

**Q：3月11日の東日本大震災の開倫塾への被害や影響はどうでしたか。**

A：(林明夫：以下省略)栃木県を中心に群馬県と茨城県に 60 校舎を展開し、2010 年度のピーク時塾生数が 7040 名であった開倫塾は、数校舎で壁にひびが入ったり、エアコンが外れる等の比較的軽微な校舎の損害に止まりましたが、多くの塾生や社員、ビジネスパートナーの皆様の家では屋根が落ちたり、部屋のもものが壊れたりしたようです。

また、首都圏とは異なり、北関東は春期講習会や新年度の募集がもともと遅い地域ですが、両者の募集時期と大震災が重なって塾生募集は苦戦しました。

**Q：開倫塾では、新型インフルエンザの時に非常時の事業継続計画に取り組んでいたようですが、今回、それは役に立ちましたか。**

A：はい。非常時の事業継続計画は非常に役立ちました。数年前に新型インフルエンザが日本中に蔓延する恐れが生じたときに、開倫塾ではいち早く非常時の事業継続計画(BCP ビジネス・コンティニュイティ・プラン)を全社を挙げて策定。特定のクラスや学校全体が休みになったり、地域の学校すべてが休みになった場合にどうするか。開倫塾の先生方や事務職員、私を含めて幹部職員が新型インフルエンザにかかり、長期間出勤できなくなった場合にはどうするか。月謝等の納入金が長期間入らなくなった場合はどうするか。などなど、ありとあらゆる場合を想定し、そのときどうするという行動計画を策定。かなり想定訓練をしておりました。今回は地震災害と原発事故と原因は異なりますが、非常に役立ちました。

**Q：今回、最も重視したことは何ですか。**

A：(1)塾生や社員の人命尊重と安心・安全の確保です。人命や安心・安全を一番に考えて、無理なことはできるだけ避けました。

(2)被災県である茨城県は別として、栃木県と群馬県は大消費地である首都圏に電力を供給するために 3 月 11 日の当日と翌日も含め、計画停電が数多く行われました。本当に困りました。

(3)また、開倫塾のある北関東 3 県は世帯当たりの乗用車の普及台数が日本一多い地域の一つですので、私を含め職員はその日に移動するガソリンを入れるために毎朝数時間、国指定のガソリンスタンド等の前で並ぶ日が 2 週間あまり続いたのにも参りました。高速道路も止ま

りました。

電力とガソリン、また、高速道路のありがたさが身に染みた東日本大震災後の 2 ～ 3 週間でした。

(4)開倫塾では、3 月 11 日までほぼ毎日のように行っていた春期講習会や新年度に向けての様々な打ち合わせ会議や研修会は、電力とガソリン不足、危険防止のため一切中止。全社員は毎日直接校舎に通勤し、校舎での授業に専念しました。

(5)指示・命令をはじめ経営についてのすべての情報発信は担当者を校舎運営部長一名に決定し、すべての指揮は一名がとりました。私は、毎日、何回も担当部長と連絡を取り合い、必要な指示を毎日出し続けてもらいました。

これとは別に、私は、3 月 11 日以降、ほぼ毎日、全塾生と全社員向けのメッセージを書き続け、授業中や校舎ミーティングで読み上げていただきました。その一部は開倫塾のホームページ([www.kairin.co.jp](http://www.kairin.co.jp))の私のコーナーに載っていますのでご覧ください。

(6)財務や資金繰りも担当する総務部長には、取引先の金融機関すべてにこの事業継続計画に基づいた経営の状況説明と、すべての事業がストップした場合の緊急融資のお願いに複数回行ってもらいました。

(7)開倫塾とは別に、私は、福島市の中心部、松木町にある学校法人有朋学園、有朋高等学院の理事長をしています。しかし、高速道路が使えず、ガソリンの目処も立たず、また、4 月 12 日まで東北新幹線も動いていなかったために、卒業式の 3 月 9 日以来 1 か月あまり福島市に行けなかったのは、非常に申し訳ないことをしたと思っています。ただ、学校の建物や設備等はほとんど損傷がなく、また、生徒や教職員の皆様も皆元気なのは安心しました。4 月 15 日の入学式には、新入生や保護者、教職員の元気な姿が見られて本当によかったと思いました。

**Q：学習塾、予備校、私立学校の先生方にお伝えしたいことはありますか。**

A：スマトラ沖のマグニチュード 9.1 の大地震の 3 か月後には、少し離れたところでマグニチュード 8.4 の大余震があったようです。同じような大余震が日本でも発生しないか心配です。また、火山の活動が活発になっていることに加え、原発事故の影響も懸念されています。

日本のどこで何が起こってもおかしくない状況ですので、建物全壊も含め最悪の場合を予想した上で非常時、緊急時の BCP、「事業継続計画」を策定し、児童・生徒・教職員の安全を確保すると同時に、学習塾や予備校、私立学校の存続を目指すべきと考えます。

今後、様々な団体で非常時対策の研究会が数多く開催されると思います。どうか積極的にご参加し研究した上で、テーマごとに具体策をマニュアル化。全社員と実地訓練を積み重ねることをお願いいたします。

**Q：非常時のBCPとは別に、どのような訓練をしたらよいと思いますか。**

A：(1)避難訓練、消防訓練、救命訓練の 3 つは、地元消防署に相談して必ず行うべきと考えます。

コンピュータや TEL、FAX、メールなどが使用できなくなった場合なども想定して、連絡体

制を構築した上での非常時のコミュニケーション訓練も必須と考えます。

(2)教職員の皆さんとはもちろんのこと、銀行など金融機関との打ち合わせや、地主や家主さん、お取引先(ビジネスパートナー)との緊急時の対処方法の打ち合わせも積極的に行うべきと考えます。

今後も、大きな自然災害が発生することがかなり高い確率で予想されています。予め御相談できる方とはすべて事前にお話し合いになっておくことが大事かと考えます。

**Q：最後に一言どうぞ。**

A：このようなときだからこそ、今月もお読みになれば必ずためになる本を一冊御紹介させていただきます。柴田トヨ著「くじけないで」飛鳥新書 2010年3月25日刊です。90歳のときに文学好きの息子さんから詩を習い、産経新聞の「朝の詩」に入選。98歳で出版した本書は、150万部のベストセラーとなったそうです。この6月18日の100歳の誕生日に2冊目の詩集を出版のご予定です。お元気な柴田さんは宇都宮市在住で、我が栃木県の誇りでもあります。是非、御一読を。

来月は、OECD50周年記念フォーラム 2011(5月24～25日)で何が議論されたのか、世界の最先端では何が議論されているのか、パリはOECD本部からの御報告です。

お楽しみに。

－ 2011年4月17日記す－